



# 農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第4号 平成21年6月1日

香川県立農業大学校

〒 766-0004

仲多度郡琴平町榎井34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989

E-mail: [nodai@mx8.tiki.ne.jp](mailto:nodai@mx8.tiki.ne.jp)



## 農大で学び、これからの農業・農村の 活性化を図ろう

校長 北山 信夫



現在、世界的な金融危機に端を発してわが国経済が低迷している中で、これまで以上に農業・農村の果たす役割が大きくなってきています。安全・安心な食料の安定供給はもちろんのこと、国土や県土の保全、農村文化の伝承などの多面的な機能に加えて、雇用面への期待も高まってきました。

しかしながら、農業・農村は、農業従事者の減少や高齢化の進行、耕作放棄地の増大、農産物価格の低迷など多くの課題を有しています。

このような現状に対応するためには、農業・農村に夢を抱き、改革に取り組む意欲ある人材が求められています。

農業大学校は、次代の農業・農村を担う人材の養成を目的として、県内で唯一設置されている総合的な農業教育

機関です。卒業後に直ちに現場で役立つよう、農場での実習を基本とし、校内での講義に加えて先進農家、試験研究機関等での勉学の機会も数多く取り入れています。

主に高等学校の卒業生を対象とした担い手養成科では、二年間、野菜、花き、果樹、造園緑化、畜産の専門コースに分かれて学び、新規就農希望者等を対象とした技術研修科では、一年、三ヶ月などの期間、農業の生産技術や農業機械等の研修を実施しています。

また、専門的な知識と高度な技術が修得できるよう、最新の栽培施設や実験機器等を整備するとともに、講師陣には本校の職員に加え、香川大学農学部をはじめ試験研究機関等から多数の校外講師もお迎えしております。

是非とも、農業大学校で学んでいただき、農業生産や流通・加工、農業経営等に対して理解を深め、自信と誇りを持った農業・農村の担い手に育って欲しいと思います。

教職員一同、意欲ある皆様の入学を期待しています。

(写真は、四月十三日に執り行われた入学式の模様です。野菜園芸コースの塩飽真奈実さんが入学生代表として宣誓しました。)

活躍する  
卒業生・修了生

瀧本貴則さん

野菜園芸コース平成十九年度卒業



瀧本さんは、三豊市豊中町の出身で、平成十八年から二年間担い手養成科野菜園芸コースに在籍していました。卒業論文では、タマネギの

重要害虫であるネギアザミウマの生態と薬剤抵抗性についての研究に取り組み、クラブ活動でも野球部の主要メンバーとして、農学連四国大会で大活躍しました。

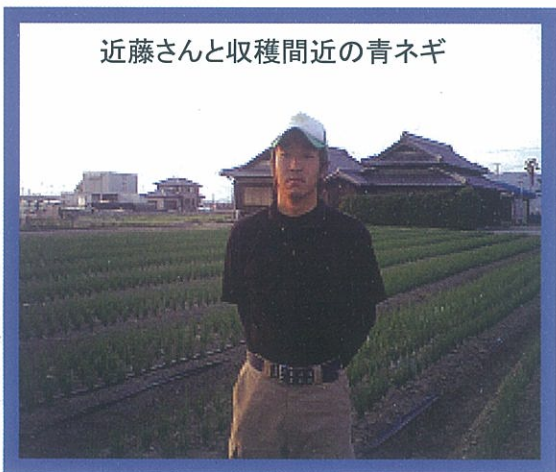
卒業後は、茨城県つくば市の独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業者大学校に進学し、更なる農業技術の習得に取り組んでいます。農業者大学校の一学年時は終日講義の毎日で、ついていくのに一生懸命だったとのことでした。また、七月から十月までは先進農家に住み込みで行う派遣実習で、埼玉県にあるトキタ種苗でアブラナ科野菜の原種栽培管理を中心に実習を行い、種苗管理についての理解が深まったそうです。

本年は、茨城での生活も二年目に入り、実習の割合が増えることから、本格的な技術習得と最後の総仕上げの年にしたいたいそうです。時々、香川の「うどん」と「祭り」が恋しくなるとのことでしたが、この一年を精一杯頑張りました。卒業後は、香川県で、農業関係の職に就き、産地振興の役に立ちたいとのことでした。

近藤芳臣さん  
技術研修科平成十九年度修了

Uターンで農業に挑んでいる観音寺市大野原町の近藤さんを紹介いたします。近藤さんは、大学経済学部を卒業後五年間、関東、北海道で衣料関係の企業に勤めていましたが、平成十八年に香川に戻ってきました。戻ってからは実家が農家であったため、後継者として農業に従事することを決意され、これまで農業の勉強をしたことが無かったということ、十九年度に農大で野菜づくりの研修を受講されました。そして今では、就農直後二十九歳という若さで、地元農協の理事を頼まれるほど地域農業の担い手として期待される存在となっています。

現在、経営安定に向けて規模拡大を行っており、就農後一年間で既に四ヘクタールの農地拡大を行っています。また以前から家族が栽培していたレタス、青ネギに加えて採種タマネギにも挑戦しています。



近藤さんと収穫間近の青ネギ

栽培規模は青ネギ三ヘクタール、レタス六ヘクタール、タマネギ二十アール、水稲一ヘクタールで、家族労働に加え常時雇用、パート六名で規模拡大に挑んでいます。もちろん、認定農業者で家族経営協定も締結しています。また、農大の研修生も積極的に受け入れしてくれています。

農地の貸し手はいても借り手がない今の時代をチャンスと捉え、サラリーマン以上の収入を目指して規模拡大を着実に進めている近藤さんの活躍を祈念します。

平成二十年度 校内卒業論文発表会

一月二十三日、校内卒業論文発表会が行われました。

今年度から、発表時間を従来より短い八分間としましたが、学生たちは、より分かり易く、かつ詳しく説明しようとする熱心に練習に取り組み、本番に臨みました。

発表内容は、いずれも甲乙つけがたい優秀なものでしたが、指導講師、本校職員、学生による採点の結果、野菜園芸コースの太田朋宏君なら



びに五嶋友紀さん、花き園芸コースの大西理沙さんならびに廣瀬茉梨さん、果樹園芸コースの三谷崇文

君、造園緑化コースの大石享平君に優秀賞が送られました。

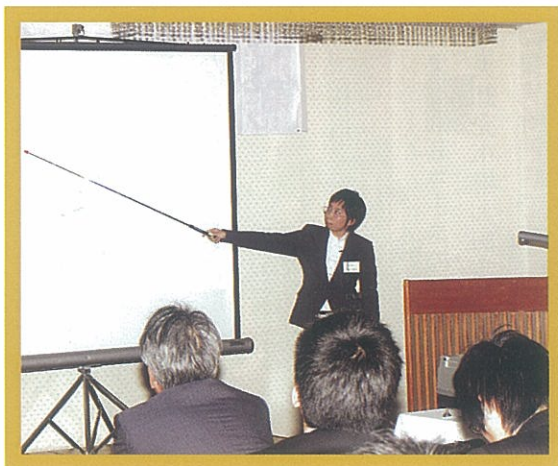
	氏名	発表テーマ
野菜園芸	太田 朋宏	天敵を利用したイチゴハダニ類防除の検討
	木下 竜太郎	不織布被覆によるアスパラガスのネギアザミウマに対する侵入抑制効果および高温対策
	五嶋 友紀	有機栽培のコマツナに含まれる葉内硝酸態窒素濃度
	齋藤 雅和	栽植密度がオクラの収量、生育、作業性に及ぼす影響
	坂西 健太	レタスの栽植密度が収量、品質等に及ぼす影響
	藤嶋 昌平	大規模キャベツ農家の経営の特徴と夏まきキャベツの品種比較
	間嶋 宏之	昇温対策としての遮光がミニトマトの収量に及ぼす影響
	丸岡 三洋	年明けどりレタスの不織布を利用したべた掛け栽培
	水口 慎平	施設内低温条件がトマトの着果に及ぼす影響
	溝淵 哲也	生育温度の違いがブロッコリーの苗の生育に及ぼす影響
花き園芸	吉岡 悠平	イチゴ「さぬき姫」での花芽未分化苗早期定植の検討
	大西 理沙	日射制御型拍動自動灌水装置の設置と経済性評価
	廣瀬 茉梨菜	電照菊における電球形蛍光灯使用が開花抑制と切花品質に及ぼす影響
果樹園芸	廣田 憲彦	ヒマワリの播種時期と摘心方法の違いが開花に及ぼす影響
	藍野 祥行	ナシの結果枝の違いが果実品質に及ぼす影響
	井川 隆仁	モモ「あかつき」における収穫時期の違いが「みつ症」の発生、果実品質に及ぼす影響
	川田 克人	少量多頻度かん水がウンシュウミカン「大津4号」の果実品質と収量に及ぼす影響
	高塚 雄喜	ブドウ「ピオーネ」における早期ジベレリン処理が作業時間と果実品質に及ぼす影響
	古市 光輝	キウイフルーツ「香緑」の液体受粉における花粉濃度の違いが果実品質に及ぼす影響
	三谷 崇文	果実袋の違いがカキ「太秋」の果実着色に及ぼす影響
造園緑化	米田 剛	モモ「なつおとめ」と「よしひめ」の結果枝の種類と結果位置の違いが果実品質に及ぼす影響
	大石 享平	3号見本庭園の設計と水場のある和風モダン庭園の設計・施工
	熊谷 洋志	松盆栽見本園内における休憩施設の施工および松盆栽置き場の改修
	小林 一弘	校内松類の現況調査と庭木松見本園の修景・展示用改修施工
	大相 美由紀	花壇苗の育成と公園花壇等の植栽設計
	三浦 知之	芝による運動場等の緑化と芝生管理マニュアルの作成

中国四国ブロックプロジェクト発表会

二月五日、徳島県において開催され、花き園芸コース大西理沙さんが「ソーラーポンプを用いた日射制御型自動灌水装置」を課題に発表しました。

全十八課題の発表がありました。が、農作業の省力化、収穫物の高品質化等、就農し、即実践で役立つような課題が多くみられました。

交流会では恒例の学校紹介で、花き園芸コースの湯浅大純君、果樹園芸コースの中山修一君が実習風景や学校行事の紹介を行いました。



# 先進地視察研修報告

三月十一日(水)～十三日(金)

## 野菜園芸コース



野菜園芸コースの八名は、京阪神方面の野菜流通販売状況の調査に組み、「府内量販店」、「コープこうべ」、「大阪市中央卸売市場本場」の視察を行いました。府内主要

量販店では、イチゴを中心に各品目の販売状況や価格を調べるとともに、品質調査のため、各店舗で販売されているイチゴを購入し、宿泊ホテルで糖度測定を実施しました。その結果、糖度と価格との相関性は低く、価格と品質(糖度)はリンクしていないという結果が得られました。これらの状況について市場の担当者に情勢を聞くと、「イチゴは、品質も重要であるが、安定的な出荷量、消費者へのPR対策が有利販売につながっている。」との事でした。その他の視察先においても、新たな発見が多くあり、今後の香川県産野菜の課題として、生産から販売までの総合的な対策が必要であることが分かりました。

## 花き園芸コース

花き園芸コースは神奈川県立フラワーセンター見学と、東京都中央卸売市場大田市場および首都圏の主要な花店における流通販売状況の調査を実施しました。神奈川県立フラワーセンターは、



大寒桜、寒緋桜等が見頃で、私たちの目を楽しませてくれました。大田市場花き棟ではせりや仲卸を見学しながら、各地からの品物の出荷状況、価格等を調査しました。春彼岸直前で活気にあふれており、学生たちも初めて見る大きな市場に終始圧倒されていました。出荷されている品目は重油高騰の影響もあり、低温で栽培できる品目が多かったように思います。花店の調査では、事前に香川県内の量販店等で調査した販売価格と比較して臨みましたが、首都圏との

価格の違いに驚きの声を上げていました。また、ホワイトデー直前で、センスの良いブーケ等もたくさん見ることができ、今後の実習で必要となる美的センスに磨きがかかりました。

## 果樹園芸コース

果樹園芸コースの二名は、東京都中央卸売市場大田市場並びに都内の果実専門店を中心に、果実の流通販売状況を調査しました。

大田市場では各産地から出荷された果実とせりの状況を見学しま



したが、学生達はその集荷量の規模と品目の多様さに驚いていました。ここでは、仲卸、市場駐在の担当者から県産果実の評価や問題点などを聞くことができました。県産品の入荷量が思ったよりも少ないことを聞かされ落ち込んでいましたが、ブドウやキウイフルーツの品質に対する評価が非常に高いことが分かり安心していました。また、果実専門店や百貨店内のフルーツブースではセンスの良い店内で一流の果実に目を輝かせていました。ここではディスプレイや商品説明の方法、また、徹底した品質管理等について学ぶことができました。

この貴重な研修は今後の専攻実習や卒業論文をまとめる中に生かされることと思います。

### 造園緑化コース

造園緑化コースでは、例年、本格的な日本庭園が集中する京都の庭園を見学しています。京都には歴史のもつ重みから、格式が高く有名な庭園が集中しており、限られた時間

でも効率よく調査・学習できました。本年も四名が、代表的な庭である桂離宮、修学院離宮、詩仙堂、曼珠院など十数箇所を調査しました。



普段、校内でも作庭実習をしていますが、今回、本物の庭を見学できたことで、庭園の景観や形式、また造営の歴史や経緯などを直に学ぶことができました。

感想を一言で表すと、気持ちが高んだ、枝垂桜が良かった、回遊式庭園の水が澄んでいることに驚いた、また、枯山水の庭石の配置がシンプルで良かったなどで、日本美を改め

て確認し、庭造りの感性や美的センスを磨くよい機会になりました。

### 畜産コース

畜産コースの四名は、島根県の農事組合法人「松永牧場」を視察しました。山間の開拓地にある当牧場は施設用地、飼料畑等四十ヘクタールの敷地内に舎飼で六千頭を飼養する大規模牧場で、学生もその規模の大きさに圧倒されていました。

高齢化や乳価低迷により酪農家の廃業が増え、子牛の供給源が減少したため、経営内での子牛確保を目的に酪農経営にも参入しました(現在、乳牛四百頭で、今後は千二百頭に規模拡大の計画)。また、搾乳は直径十七メートルの回転台で五十頭の同時搾乳を行うメリーゴラウンドで、一周すると作業が終了するといった近代的な設備でした。

肥育経営では子牛購入費の削減と子牛価格の変動による不安定要因の解消のため、和牛受精卵の乳牛移植による和牛子牛の生産、雄和牛交配のF1(交雑種)生産による一

貫経営の確立を指向していました。一方、給与飼料についても未利用資源の豆腐粕、野菜クズ等を引き取り、四十日間発酵処理後、給与するなど、飼料価格の高騰にも対処していました。

繁殖、肥育の一貫経営への移行、未利用資源の活用による飼料費の削減等による経営努力により消費者にリーズナブルな牛肉を提供しようとする意気込みを感じました。今回の研修で立地条件の違いなど種々の課題はあるものの、当牧場の経営方針は畜産の目指す経営の方向であると思いました。



平成十九年度 卒業式

三月六日、第三十二回卒業式が知事出席のもと盛大に行われ、担い手養成科学生二十六名と技術研修科研修生十六名が卒業しました。



西谷校長は式辞の中で「寒風や酷暑の中で学んだ体験が、将来の財産になります。就農や農業関連の企業の中で、学んだ知識を生かしてください。」とはなむけの言葉を送り、野菜園芸コースの五嶋友紀さんが

「学校生活での貴重な体験を心の財産として社会に第一歩を踏み出して行きます。」と誓いました。本年度当校は、学校教育法に基づく専修学校に移行し、移行後初の卒業生となった担い手養成科卒業生には「専門士（農業専門課程）」の称号が与えられました。

また、担い手養成科卒業生の進路は、就農六名、JA等の農業関係指導者六名、農業機械等農業関連会社十名、その他企業四名です。それぞれの道を歩み始めた皆さんの御活躍を期待します。

- ・ 同窓会からのお知らせ
- ・ 新役員体制
- ・ 在校生との交流会開催

農大同窓会は三月五日に開催した総代会で新役員を選出しました。会長は長谷貞憲さん（大川地区）、副会長は岡泰司さん（小豆地区）と亀山邦治さん（高松地区）で、平成二十四年の創立百周年事業はこの体制で準備をすすめます。

また、総代会後に在校生との交流会を開催しました。同窓会役員十四名、在校生全員六十七名のほか職員も参加し、約百名の盛大な会になりました。交流会では、まず役員と入会予定者（担い手養成科二年生と技術研修科研修生）との対面を行いました。役員全員による挨拶のあと、二年生と研修生が自己紹介とともに将来の抱負を話し、さらに一年生も加わった居住地別の交流会では卒業後の進路や地区の話題などについて話を深めました。一年生は、同じ地区の大先輩や二年生の前で少し緊張していたようですが、同窓会を身近に感じられるようになっていったと思います。

今後の行事予定

- 七月十五～十七日 全国農大交換大会（東京都）
- 八月中旬 後援会情報交換会
- 十月七日 四国農学連スポーツ大会（高知県）
- 十一月十四日 農大ふれあい市

来たれ!

オープンキャンパス

● 期日

- ・ 六月二十八日（日）午後
- ・ 八月三日（月）、七日（金）、二十六日（水）いずれも午後
- ・ 十一月十四日（土）午後

● 内容

- ・ 大学の概要説明
- ・ 入試の概要説明、施設見学、個別相談など

事前に電話でお申し込みください  
0877 (75) 1141

編集後記

今後も、分かりやすく見やすい「農大だより」を目指していきたいと思っておりますので期待ください。

(次)